

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設名	大空と大地のなーさりい第一南大塚園
施設所在地	東京都豊島区南大塚2-26-15南大塚ビル2階
法人名	株式会社キッズコーポレーション

1. 活動のテーマ

<テーマ>

科学（片栗粉粘土）

<テーマの設定理由>

日常の遊びの中で実験遊びに興味関心が高い為、身近な物や現象を通して更に追及して遊べるよう「実験遊び」をテーマとして設定する。
片栗粉や石鹼等身近な素材から始め、なぜ？どうしてそうなった？や目的の形を作るにはどのようにすれば良いか？等試行錯誤を繰り返す経験を積む。

2. 活動スケジュール

8月～9月	11月
片栗粉と水を混ぜてみる	水量の変化での違いを知る
12月	2月
実験遊びを披露する	実験遊びを他園と共有する

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

片栗粉
洗面器
プロジェクター
スクリーン
WEBカメラ

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

- ・ 片栗粉粘土作り（片栗粉粘土で感触遊びを楽しむ）
- ・ 水の量の違いで感触に違いがあることに気づく
- ・ 個々に作成したものを一つにしたり、食紅等で着色をしたりし、形状や感触の違いを知る

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

・ はじめは粉の状態に触れると「サラサラしてる」「気持ちいい」などの反応があった。保育者は子ども達の感想に共感し、水をまぜたらどうなるのか、声をかけ考える様子を見守った。「ドロドロになるのではないか。」など様々な意見が子ども達から出た。実際に水を少しずつ加えてみると、固く成ったり柔らかくなったりする片栗粉の感触を喜んでいた。また、更に水を加えるという実験を行うとサラサラの水に変化したことも気づき、子の発見となっていた。子ども自身で水の量を調節する工程になると夢中になって遊びこんでいる子が多くみられた。また、他児の実験する様子をみて自分の実験内容”水の配合を変えてみる”といった様子も伺え、ただ遊ぶことから、考えて行うというアクションに変化していった。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

適度な水の量はあるが大人が教えるのではなく、子ども達自身が水を加え少しずつ変化する感触を肌で感じることで気づきや発見があるのだと感じた。必ずしも成功することが大切なのではなく、失敗ややってみることで学ぶことの方が多いと感じた。また、異年齢児の組み合わせで実験する際は年長児が経験をもとに率先して遊びを展開していた。また、片づけは保育者の方で行う予定でいたが、子ども達が目指した形状の粘土が完成したことで達成感や満足感があったようで、次回につなげたいと進んで片づけを行っていた。興味関心があることに対して子どもたちは大人が過度に手をかけなくても最後まで完結させることができるのだということに気づかされた。